ついに来てしまいました。最終号です。かなり細かく書きました…。フハハ

最終号

ぶんこでいず

読みにくくて申し訳ない

ぶんこでいず総まくり & まだまだ売りたかった文庫たちをぎゅーぎゅーにご紹介します！

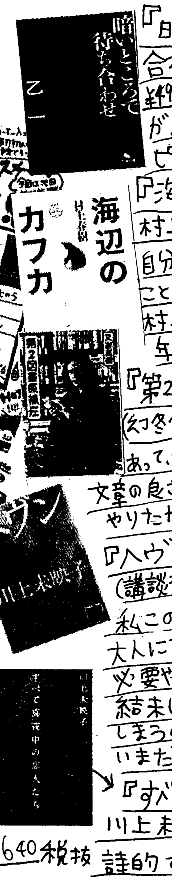
今まで読んで下さったお客さまに、深く感謝いたします！

語りつくせない文庫愛を…とくとご覧あれ（笑）

『世界クッキー』（文春文庫）¥480 税抜

そら頭はでかいです、世界がすこんと入ります

『そら頭はでかいです、世界がすこんと入ります』（講談社文庫）~~¥524 税抜~~ まずは川上未映子エッセイから読むのも有りッ!!!



『暗いところで待ち合わせ』乙一（幻冬舎文庫）¥495 税抜 こわい表紙ですが、ものすごく良いです。ピュアで私の心が洗われます。

『海辺のカフカ（上）（下）』村上春樹（新潮文庫）¥㊤710 ㊦750 税抜 自分にもあったこんな季節のことを、忘れたくないなと思う。村上春樹は若いうち1回、年数経てもう1度読んで下さい。

『第2図書係補佐』又吉直樹（幻冬舎文庫）¥495 税抜 フェアもあって、何度読み返したか。しかし、文章の良さに、はっとします。またフェアやりたかったよ—— クスッ

『ヘヴン』川上未映子（講談社文庫）¥552 税抜 私この作品好きなんです。大人になることは、大事やし必要やけどさびしいです。結末は白か黒かで決めてしまうのは、正しいのかなって。いまだに答え出ませんもん。

『すべて真夜中の恋人たち』川上未映子（講談社文庫）¥640 税抜 詩的で、ものすご～く美しくて、もったいないと思いながら止められず、一気読み。あらすじ説明しちゃったらなんてことないけど、違うんだよー この本は、川上未映子は違うんだよー。ラブ要素が欲しい人には別の本おすすめするから、ちょっと静かにしててな!! キッ って声をあらげたくなるよ。ついつい感情的になりましたが、ストーリーうんぬんだけが小説ちゃいます！（キッパリ）

『さがしもの』角田光代（新潮文庫）¥490 税抜 いく度となくこの本をオススメしていました。本にまつわる個人的な話というのは実に魅力的で、私はますます「本屋さんとしてがんばろう」って思った。

『映画篇』金城一紀（新潮文庫）¥840 税抜 映画好きにオススメですが、小説としてもオススメです。自分の力で立ち上がる、そんなパワーがあります。

ぶんこでいず スタートゥ

2011

6月末発行 7月号～

①記念すべき1号目です。4つ折りにした時に右上に題字が来るレイアウトはこの時から変わらず。この号のみオモテのみの印刷。

②8月号『夏の文庫フェア特集』この号から両面仕様に。そして文庫担当サブをしていてくれた子（当時）と分担制に。

③9月号『文庫担当の本棚特集』。この号から「ねこ村」と名乗るようになりました。お客さまとより近い存在に感じてほしくてキャラを作りました。（まぁ、本人そのままですが）サブ担当のことは「サブちゃん」としてキャラ作りしました。コメントも話しかけるようにしてほしいと指示してました。

④10月号『おいしい文庫あつめました』メニュー風の特集。

⑤11月号『こころを読む。』9月くらいから、ぶんこでいず会議を開いていて、そこで最近読んだ文庫の話とか特集を決めたりしてたんですが、そこで「今になって文学をもう一度読むとものすごいオモロイ」って盛り上がって作ったテーマでした。2人で感想を書き合って、もう楽しかったなー。

⑥12月号『冬に読みたい文庫』特集。3つのテーマに分類して紹介してます。編集後記には段々お客さんの反応が増えてきて…

2012

⑦1月号『ミステリー作品特集』この号から毎年1月号はミステリーになりました。この年は渋いラインナップ（笑）とありました♡

⑧2月号『恋愛小説特集』2月も特集が定着。裏面の新刊案内も現在と同じ左側に定着。この年の1月に発売された『ミーツリージョナル2月号』に載るというミラクル。取材をして下さった京阪神エルマガジン社Tさんともう5年のお付き合いか…。

⑨3月号『文学シリーズ2弾目、芥川龍之介編』これも最高に好きな号です。

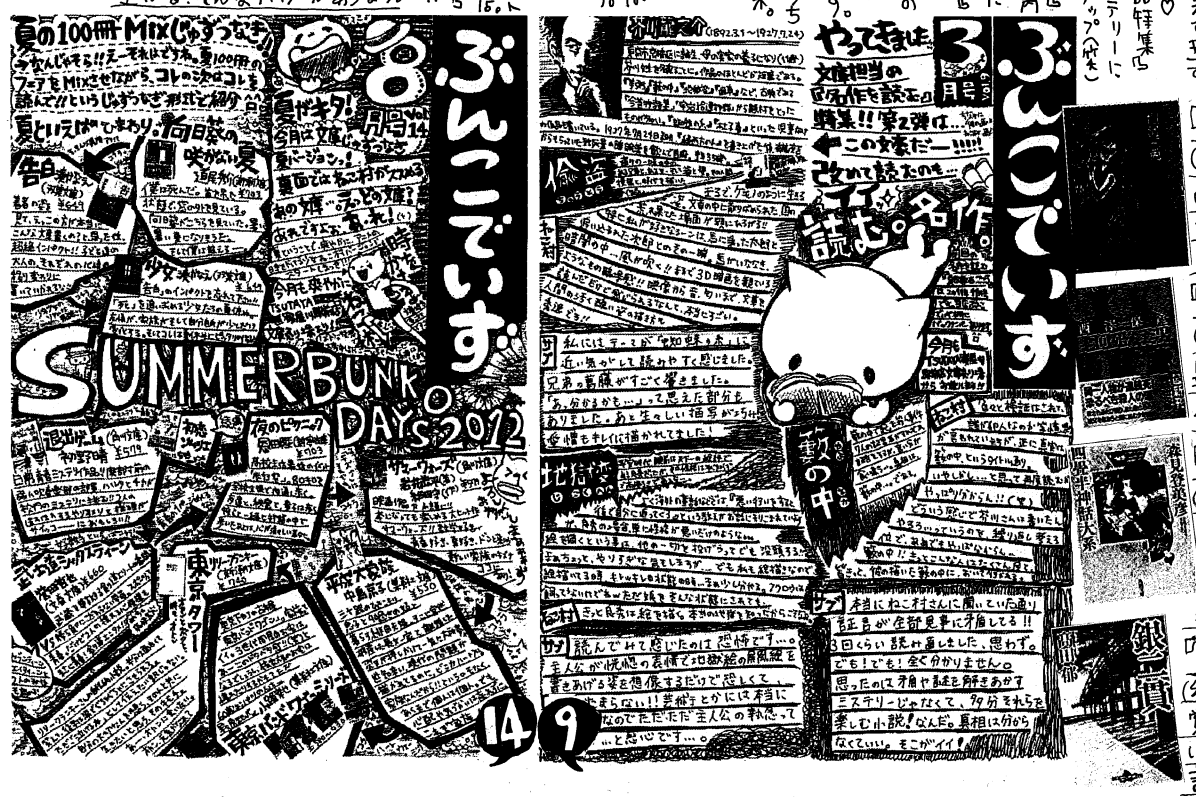
⑩4月号『サブちゃん卒業スペシャル』サブちゃん卒業記念号でサブちゃんセレクトの特集。

⑪5月号『ギュッと五月病に効く青春爆発文庫』この頃にぶんこでいず棚が店頭に登場します。

⑫6月号『ちょっと不思議なはなしはいかが』かなり書き込んでる号です。

⑬7月号『ねこ村が最近読んだ本』1周年のスペシャル感ゼロ!! レイアウトは気に入ってます。お店のツイッターアカウントが登場!! しばらくして浸水しましたね…店。

⑭8月号『夏の文庫MIXじゅずつなぎ』夏フェア関係ない文庫もごちゃまぜスタイル!!

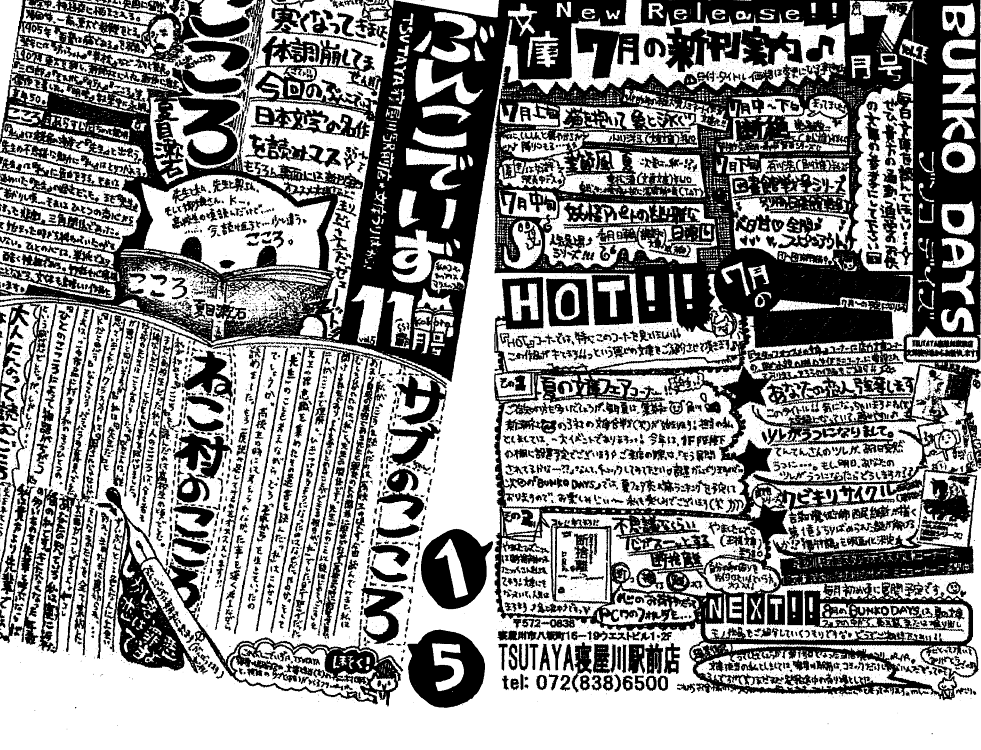


『私を知らないで』白河三兎（集英社文庫）¥650 税抜 まだ未読の方ー!? 12年に発売して大事に大事に売ってきました。青春ものだと思ってたら「エッ!?!?」イシシシ

『七回死んだ男』西澤保彦（講談社文庫）¥680 税抜 こちらも最後の最後でドンガラガッシャーン☆ 何回か読み返す系文庫です!!!

『四畳半神話大系』森見登美彦（角川文庫）¥680 税抜 最後まで絶対読んでほしい（笑）でもかならず飛ばさず読んでほしい！ってPOPにも書いてましたね。

『銀二貫』高田郁（幻冬舎文庫）¥600 税抜 賞をとる前からこの本推しです。いい作品です。時代もの読んだことない人にこそ。



「POPみたいで」「見てるだけで楽しくなる紙面」「通勤、通学のお供になるように細かい紙面」「学級新聞みたいで」「お客さんと距離が近いもの」を作りたいという思いで始めました。どうして人は、自分の身近な人がオススメした本は「へえ～面白いんや～」と信用して買うんやろう、何がPOPと違うんやろう、とずっと考えていました。もちろんPOPは振り向いてもらって、そして、もっと前から作ってました。信用してもらわないと、アカンねや。置いて、待ってるだけじゃアカン!! それに気付くと怖くて仕方がなかったです。もっと楽しく、そして出合ったことのない本を最前線でプロデュースしていきたい。何より、ペーパー作りは楽しくて仕方ありませんでした。1号目は特に楽しくて。（笑）